



地域の災害ボランティア

特集

笑顔をおもやります



昨年の8月末に起きた佐賀豪雨から、もうすぐ1年。今月は豪雨災害を機に設立された武雄市のボランティアグループをご紹介します。あらためて防災について考えてみましょう。

取材協力 一般社団法人おもやりすずきりゅうた 代表 鈴木隆太さん



汚れた写真を洗浄し、大切な「思い出」を残します

武雄市で『チームおもやり』が設立されたのは、昨年の豪雨直後の9月4日。現在も、おもやりボランティアセンター（旧北方幼稚園）を拠点に活動を続けています。おもやりとは方言で「共有する」「一緒に」という意味。愛知県出身で災害救援NGOでの活動経験があり、現在は武雄市で住職をされている代表の鈴木隆太さんにお話をうかがいました。

「佐賀豪雨で私が好きなのは、メン店が床上1メートルほどの浸水被害にあわれていたんです。店主に話を聞くと罹災証明などもご存知なくて。まずは地域で集まって情報交換することが大切だと感じ、その最初の集まりがチームおもやり設立のきっかけとなりました。」



県内外から、多くのボランティアに来ていただきました

チームおもやりでは、災害発生を受け全国各地から集ったボランティアのまとめ役を担い、家屋の清掃や炊き出しなどの食事支援を行いました。また、汚れた写真の洗浄や、メンバー内の建築士と被災された方が一緒に家具をつくるワークショップを開催。定期イベント『おもフェス』では、バンド演奏やラグビー選手とのふれあいなど、地域の人々のつながりが生まれる場も作っています。

鈴木さんは「昨年12月にラーメン店が再開したときは本当にうれしかったです」と笑顔。ただその一方で「今なにをやるべきかをいつも考えている」と話します。「最後の一人までの復興」を目指す。今もなお災害の影響で困難な状況にある方の支援を行うほか、地域の人の防災意識を高める活動も。今年6月には防災カフェを開いて、防災グッズの紹介や事前避難の大切さなどを共有しました。現在は災害支援だけでなく、高齢化



家の講習会・相談会では水害後の家の正しい復旧の手順や再建方法の相談を行います

が進む地区のお手伝いなど、チームおもやりの活動はまわづくりにも及んでいます。「今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、災害が起ころうと、県外からのボランティアが集まりにくい状況です。だからこそ地域の中で助け合いが大事だと思います。私も災害支援で全国をまわってききましたが、佐賀県のみならずは何か起きたときに『手伝おう』『応援しよう』という意識が高いと感じます」と鈴木さん。地域に暮らす人々が、ここに住んでいて良かったと思える町へ。チームおもやりの活動の輪が、人々の笑顔をおもやりしながら広がっています。



地域の人々が話せる安心できる場所を作ります

建築士と一緒に家の棚をつくるワークショップも開催



防災トピックス

1 河川情報をリアルタイムにチェック！

県内の河川情報をまとめたwebサイト「すい坊くん（佐賀県河川情報システム）」がリニューアルし、スマートフォンやパソコン、携帯電話からもアクセスできるようになりました。サイトでは県内各地の河川水位、雨量などの観測情報や、河川・海岸のカメラ画像が確認できます。大雨時の避難など身を守るための判断材料としてご活用ください。

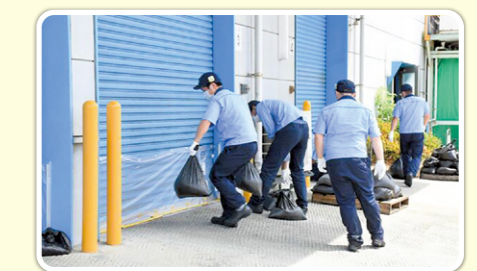
河川砂防課 ☎0952(25)7162



NEWS

佐賀鉄工所で防災訓練が行われました

佐賀豪雨で油が流出した佐賀鉄工所大町工場6月24日に防災訓練が行われました。鉄工所では工場全体を防水壁で囲み、工場西側の河川に水位センサーを設置するなどの水害対策を進め、新たに水害対応マニュアルを作成しました。訓練では油槽のある建物のシャッターに止水シートを取り付け、土のうを置く作業が行われました。



佐賀新聞社提供

2 外国人とともに災害を乗り越える

災害時の外国人への心配りをまとめた「災害対応ガイドブック」ができました。佐賀県国際交流協会が無料で開催する出前講座で配布されています。簡単で短い「やさしい日本語」で話すことや、宗教上の食事の配慮など、外国人への理解を深め、ともに災害を乗り越えていきましょう。

(公財)佐賀県国際交流協会(SPIRA) ☎0952(25)7921



詳しくはコチラ

新型コロナウイルス感染症に配慮した避難行動を！

原則 災害時には危険な場所にいる人は避難をすること

災害に備え、どのような行動をとるか事前に確認や準備が必要です。「自らの命は自らが守る」の意識を持ち、適切な避難行動をとりましょう。

POINT 1

避難とは「難」を「避」けること。**安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません**



POINT 2

避難先は、小中学校・公民館だけでは**ありません。安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう**



POINT 3

避難する際は**マスク・消毒液・体温計**をできるだけ**携行**してください



POINT 4

避難場所、避難所が**変更・増設**されている可能性があります。**市町ホームページ**等で**確認**してください



POINT 5

豪雨時の屋外の移動は**車でも危険**です。**やむをえず車中泊**する場合、**周囲の状況**を**十分確認**し、**エコノミークラス症候群**に**注意**してください



防災啓発動画を公開中！

災害が起こる前に最低限確認しておくべきポイントを48秒にまとめています。自分の命を守るため、まずは災害を自分のこととして考え、災害に備えましょう。



YouTube

危機管理防災課 ☎0952(25)7362

知っておこう！5つのポイント

7月4日に発生した熊本県球磨地方の豪雨など、今年も大きな被害を受けている地域があります。昨年の佐賀豪雨では県外の多くの方にご支援いただきました。被災地域の復旧・復興に向けて、それぞれができるレベルで互いに支えあっていきましょう。